

人権を考える「ひろかわ」セミナー

～ 外国人・子ども・障がい者の人権 ～

☎生涯学習課 人権・同和教育係 ☎0943-32-0093



▲3年ぶりの開催となった本セミナー

一人ひとりの人権が尊重される、住みよい町をめざして

幸福を追求する権利は、誰もが平等にもっているものであり、これを侵害することはできません。しかし、現実の社会ではどうでしょうか？

日常のあらゆる場面に人権問題が存在し、差別や偏見の中で生活している人がいるのが事実です。私たちひとり一人が人権について考え、正しく学ぶことが解決への大きな一歩につながります。

11月は3回にわたり、人権を考える「ひろかわ」セミナーを開催し、多くの人が参加いただきました。今回は、全講座の概要と参加者の声を紹介します。

第1回 外国人の人権
「多文化共生のまちづくり」



講師：柳井美枝さん
(北九州市立大学非常勤講師)

自身の生い立ちから始まり、ハングル文字の読み方や書き方、帰化問題について講義が進みました。

多文化共生で大切なことは、お互いに文化を学び、尊重し合うことであり、一方的に理解を押しつけるような「文化の同化」になってはいけません。

一人ひとりが「人権とは何か？」を、自分なりに考えることが大切です。

〈参加者の声〉

▼自身の経験や思いをもとに話をされていたので、とても分かりやすい内容でした。柳井さんの言葉一つひとつに胸を打たれました。

▼「もし自分だったら？」と想像し、自分に置き換えて考えることが大切だと思いました。

第2回 子どもの人権
「子どものモノガタリを聴いてみませんか？」



講師：佐本珠美さん
(子どもNPOセンター福岡)

子どもが声を上げることをサポートする「子どもアドボカシー」の活動内容を通して、講義が進みました。

児童虐待やいじめなどの社会問題から子どもを守るためには、子どもの意見をしっかりと聞いたうえで、代弁してあげる大人が必要です。

自身の子育てでの体験談も交えながら、ワークシヨップも取り入れた、楽しい講義となりました。

〈参加者の声〉

▼「アドボカシー」という言葉を初めて聞きました。

▼子どもと接するときに、自分の感情で決めつけたり、さちんと聞いてあげられなかったりしている部分もあると、改めて気づくことができました。

第3回 障がい者の人権
「ともに生きる社会づくり」



講師：古庄和秀さん
(大牟田市議会議員)

「災害は平等に起きるが、避難は平等ではない」ことや「機会の平等ではなく、結果の平等」など、当事者として「障がい者と平等」をテーマに、具体的な事例を通して講義が進みました。

平等に人権を享受し行使できるよう、障がいの特性に合わせて行われる、個人に対する配慮を「合理的配慮」といいます。障がいがある人も平等に参加できる社会を実現するためには、この合理的配慮の考え方がとても重要です。

〈参加者の声〉

▼すべての人が住みやすい社会を実現するために、合理的配慮について考える必要があると思いました。

▼自分自身の知識や感性を、常に研さんしていくことが大切だと感じました。

広川町立図書館へ行こう!

〒広川町立図書館 ☎0943-32-1163



■今月のおすすめの本



ニュー・ダッド
木津毅 / 著
筑摩書房



日本の祝日と歳事の由来
生方徹夫 / 著
モラロジー道德教育財団



採集と見分け方がバッチリわかるアンモナイト図鑑
守山容正 / 著
築地書館



ハツ江おばあちゃんの定番おうち洋食
高木ハツ江 / 著
NHK 出版



子育てがづらいと思うあなたへ
寺崎しのぶ / 著
Clover 出版



べつに怒ってない
武田砂鉄 / 著
筑摩書房



18歳成人になる前に学ぶ契約とお金の基本ルール
消費者教育支援センター / 監修
旬報社



きみもできるか!? 天才科学者からの挑戦状
マイク・バーフィールド / 作・絵
ポプラ社



ロドリゴ・ラウバインと従者クニルプス
ミヒヤエル・エンデ / 作
小学館



さんぽっぼ
たなかしん / さく・え
パイインターナショナル

■プチ・シアター「東京物語」

日本映画を代表する映画のひとつとして、海外でも評価の高い、小津安二郎監督作品。

- 日時 2月3日(金)、14:00～16:16 (13:30 開場)
- 場所 町民交流センター「いこっと」2階大研修室
- 定員 80人

※事前申し込み不要。マスクを着けてご来場ください。

■1月のおはなし会 [場所・読み手]

- 7日(土) 10:30～11:00 児童向け [お話しの森・きらら]
- 11日(水) 10:30～11:00 乳幼児向け [かっちゃんこ]
[ハグハグ・絵本コンシェルジュ]
- 15日(日) 10:30～11:00 児童向け
[お話しの森・たまてばこ]

やっぱり図書館へ行こう!

vol.34 図書館は生きている!⑧

今回は「児童図書の文庫本の別置」についてお話しします。児童用の文庫本はとても人気があり、シリーズものがたくさんありますが、小さいため、ほかの本に紛れてしまいがちです。

「角川つばさ文庫」「講談社青い鳥文庫」「集英社みらい文庫」は別置していましたが、名作が多いといわれる「岩波少年文庫」や「偕成社文庫」、「小学館ジュニア文庫」、「ポプラカラフル文庫」、「フォア文庫」など、全14種の児童文庫本を11月から同じく別置にし、同じところに取りそろえました。

■1月の休館日

- 1日(日)～3日(火)・5日(水)・10日(火)・16日(月)・23日(月)・30日(月)
- 毎週(月)・第1(木)が休館、(月)が祝祭日の場合は翌日以降の直近の平日が休館

2月1日(水)～2月7日(火)は、特別整理期間(図書館が所蔵する資料の点検や移動など、開館中にできない作業を集中的に行う期間)のため休館します。